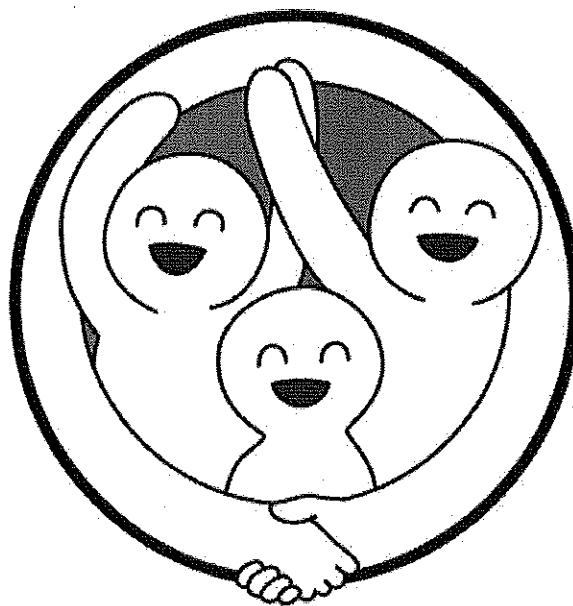


## 令和 2 年度第 2 次愛荘町地域福祉活動計画

### プロジェクト（基本計画）取り組み報告書



愛荘町地域福祉活動計画推進委員会  
社会福祉法人愛荘町社会福祉協議会

## 目 次

- 1 ページ・・・・見守りネットワークプロジェクト
- 6 ページ・・・・くらしサポートプロジェクト
- 8 ページ・・・・ボランティアセンタープロジェクト
- 15 ページ・・・・福祉教育プロジェクト
- 26 ページ・・・・地域を守る災害支援プロジェクト

## 見守りネットワークプロジェクトまとめ

今年度は、コロナ禍の中で新たな取り組みとして企画していた「モデル活動」に取り組むことができませんでした。

このような中、推進会議ではコロナ禍における見守り活動や居場所づくり、新たな訪問活動のしくみづくりについて委員で協議を進めてきました。

### ★地域子ども福祉体験「子ども民生委員・児童委員事業」（資料2ページ～3ページ）

斧磨・亀原自治会で実施予定であったが、コロナ感染が拡大傾向にあった為、自治会とも相談いただき今年度は中止することとなる。次年度に感染状況が落ち着いてきた段階で実施できるように進めていくこととなる。

プロジェクト委員も、啓発で使用する東京都葛飾区の民児協が作成されたアニメDVDを実際に見て内容を検討しました。

### ★新たな見守り活動のしくみ「おたがいさまの見守り活動推進事業」（資料4ページ～5ページ）

地域において独自に見守り活動に取り組まれているところや、社協のいきいき見守り訪問事業などを利用されているところがあります。サポート会議などで自治会の状況などを話し合っている中で、見守り訪問などに取り組もうか等の話が出てきた際のきっかけ事業として、また、現在取り組んでおられる地域については、新たな活動の広がりが持てる活動として進めていきたい。

訪問時には、町内の相談情報や福祉以外の情報なども入れては、どうだろうかとの意見も出ておりました。

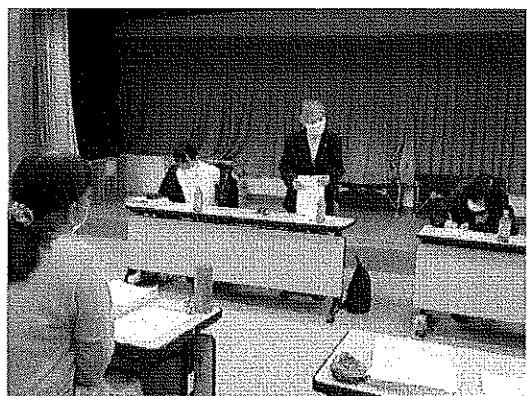
この事業は、社協事業として令和3年度より進めていくこととなり、プロジェクトで検討していく内容を事業化することができました。

### 【これから進めていくこと】

#### 「SOSを発信できない方への見守りについて」

- ・SOSを発信できない方…どのように対象を捉えていくのか。
- 地域との関係性、身体的な問題等、様々な原因で発信できない方がいることを想定し、すべての背景を含めて対象は限定しない方向性で考える。
- ・新興住宅地が増えてきている。近くに親戚がいるから大丈夫と言われるが、近くといつても東近江市等の町外であったりするため、すぐに来てもらうのは難しいのではないかと思う。
- ・自治会に入っていないと、地域とのつながりが希薄化していく。入っていれば、お互いを気に掛けることも増えてくると思う。
- ・見守りのメニューを作成して配布するのはどうか。  
ただ見守りが必要かを尋ねるよりは、頻度（週に1回程度等）や方法等の具体的な例を出して、住民の方に案内していけばわかり易いと思う。

★計画の最終年度は、「見守りのメニュー作りを中心としたSOSの発信のしくみづくり」を進めていきたい。



よきとぎちく  
斧磨地区

# ちいきこふくしたいけん 地域子ども福祉体験

## こみんせいいいんじどういいん ～子ども民生委員・児童委員～

開催場所：斧磨公民館・公民館周辺

☆開催日時 令和2年 月 日(日) 10:00~11:30

☆参加者 斧磨子ども会の皆様(小学生とその保護者)等

☆主催 愛荘町社会福祉協議会

☆協力 斧磨自治会・子ども会・民生委員児童委員

### プログラム

10:00～【災害・防災について学びましょう!】

・もし大きな災害が発生したら…。

・目が見えなかつたら、歩けなかつたら、避難できるかな?



11:00～【民生委員・児童委員って?】

・みんなで助け合うことが大切です。

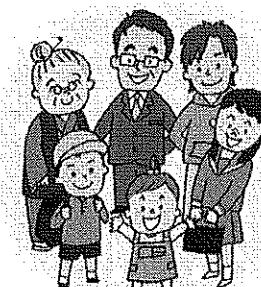
大人になっても、おじちゃん・おばあちゃんになっても、住みたいまち(斧磨)  
についてみんなで考えましょう!!

### ★保護者様へコロナウイルス感染予防についてのお願い★

①マスクの着用をお願いします。 ②当日の検温をお願いします。

③37.5度以上の熱や、体調の悪い方は参加しないようにお願いします。

お問い合わせ先:愛荘町社会福祉協議会 担当 岡村  
愛知川事務所 電話0749-42-7170



## 令和2年度見守りネットワークプロジェクトモデル事業 地域子ども福祉体験「子ども民生委員・児童委員」事業 実施要項（案）

### （目的）

「みんなで進める 笑顔あふれる福祉のまちづくり」を目指して町内の福祉人材育成事業として、小地域単位で子どもを中心に地域住民の皆様と共に福祉学習を実施し、地域のつながりや助け合いの大切さを学び、福祉についての意識を高めることを目的とし実施する。

### （実施主体）

この事業は、愛荘町社会福祉協議会が地域住民やボランティア等の協力を得て実施する。

### （場所）

町内各自治会にて実施する。

### （対象者）

この事業は、自治会内の小・中学生を中心に地域住民を対象者とする。

### （実施方法）

民生委員・児童委員、主任児童委員、自治会役員等と開催内容や募集方法について相談する。

福祉学習の指導については、愛荘町社会福祉協議会職員を中心に地域住民やボランティアの協力を得て行う。

### （内容）

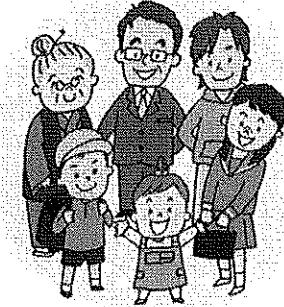
- 民生委員・児童委員に活動について学ぶ
- 福祉体験（車いす・アイマスク・災害 等）
- 私たちの地域について考えよう
- その他

### （保険）

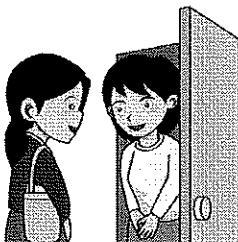
事業中の事故等については、ボランティア行事用保険の範囲内で対応する。

附則 この要項は、令和 年 月 日から施行する。

# 地域の助け合いを推進する 「おたがいさま」の見守り活動



「地域の福祉課題について検討をしているが、何から取り組んだらよいのかわからないな」、「新しい生活様式に対応した福祉活動は、どのようなことができるのかな」、「地域で見守り活動をはじめたいが、どのように進めたら良いのかわからない」等、地域で見守り活動を取り組むきっかけとなることを目的に「おたがいさまの見守り活動」をはじめました。



## どんな活動？

見守り訪問活動を始めるきっかけとしての活動です。

①見守りの対象者は、地域の見守りサポート会議等で検討いただきます。

（例 一人暮らし高齢者世帯・子育て世帯など）

②訪問には、町内の福祉情報や地域の方のお手紙などを「おたより」にしてお配りします。

③訪問活動を始める前には、対象世帯の確認や区民の皆様への啓発をおこないます。

④活動を終えましたら、訪問先の反応などを話し合う振り返りの場を持ちましょう。

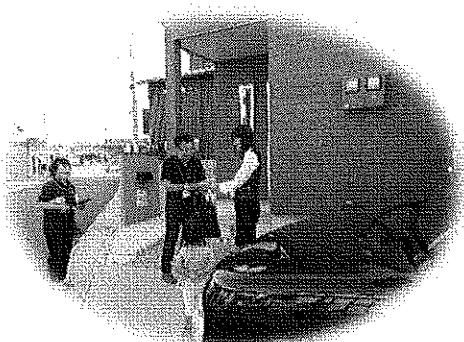
## だれが訪問するの？

見守りサポート会議等で訪問者や訪問日等をご検討いただきます。

## 大切なこと

活動では、個人や世帯のプライバシーに配慮するとともに、活動で知り得た情報は、この活動以外で外部に漏らしてはなりません。

また、活動を終えた後においても同様とすることを関係者で共有しましょう。



お問い合わせ先  
愛荘町社会福祉協議会 愛知川事務所  
電話 0749-42-7170

# 「おたがいさま」の見守り活動推進要項

## (目的)

第1条 この活動は、各地域での「おたがいさま」のネットワークを広めていくため、自治会等小地域単位での見守り活動を推進することを目的に、見守りが必要と考えられる世帯へ、地域の福祉関係者が訪問して町内の福祉に関する情報を「おたより」として配布し、つながりづくりや孤立防止を図り、「いきいき見守り訪問事業」や「自治会での見守り活動」へつなげる機会をつくる。

## (推進主体)

第2条 愛荘町社会福祉協議会（以下、「社協」という）は、地域の福祉関係者が主体となる活動を実施できるよう、担当民生委員・児童委員をはじめ自治会役員や関係機関、団体等の社会福祉活動者と連携し協働のもと推進する。

## (活動の内容)

第3条 ①見守りサポート会議等での対象世帯や見守り活動についての検討  
②対象世帯への訪問活動（おたより見守り訪問）  
③対象者への福祉情報等の提供  
④その他、本活動に必要なこと

## (協力・支援)

第4条 社協は、地域で第3条の活動が行われる場合は、次の事項について協力・支援を行う。  
①おたよりボランティアの募集・育成  
②訪問活動の企画調整・同行  
③福祉情報等の準備  
④活動を検討する場（見守りサポート会議）の開催調整  
⑤活動推進のための助言・提案・情報提供および連絡調整  
⑥見守り活動報告会等、町民への啓発  
⑦その他、活動の推進に必要な支援

## (活動場所)

第5条 町内各自治会  
各自治会単位で対象世帯を把握し、対象世帯を個別に訪問する。

## (守秘義務)

第6条 活動においては、個人や世帯のプライバシーに配慮するとともに、活動で知り得た情報は、本活動のみに使用し、それ以外外部に漏らしてはならない。また、活動を終えた後においても同様とする。

付則 この要項は、令和3年4月1日から施行する。

## くらしサポートプロジェクトまとめ

令和2年度のくらしサポートプロジェクトでは、昨年度の中間評価を受けて、計画内の取り組みを二つの小委員会に分かれて具体的な取組にむけて進めてきました。

### ①日常の困りごとに素早く対応できるしくみづくりと、一人ひとりの状況に合わせた地域支援のしくみづくり

(イメージ図) ↓

これまで、「しくみ」についてイメージ図をもとに具体的な取り組みとして、2年度も福祉機関地域連携会議を開催しました。

2年度は、地域住民（民生委員・児童委員）と福祉の専門職（介護支援専門員と障害サービス計画相談支援専門員）と一緒に集まり、地域における福祉活動と福祉課題の状況の情報交換と、生活課題や「ひきこもり」・「障がいのある方の災害支援」の対応について意見交換を行いました。

①令和2年12月16日（水）

②令和2年12月17日（木）

③令和3年 3月 3日（水）

④令和3年 3月 4日（木）

#### ・参加者

民生委員・児童委員 4名

介護支援専門員 2名

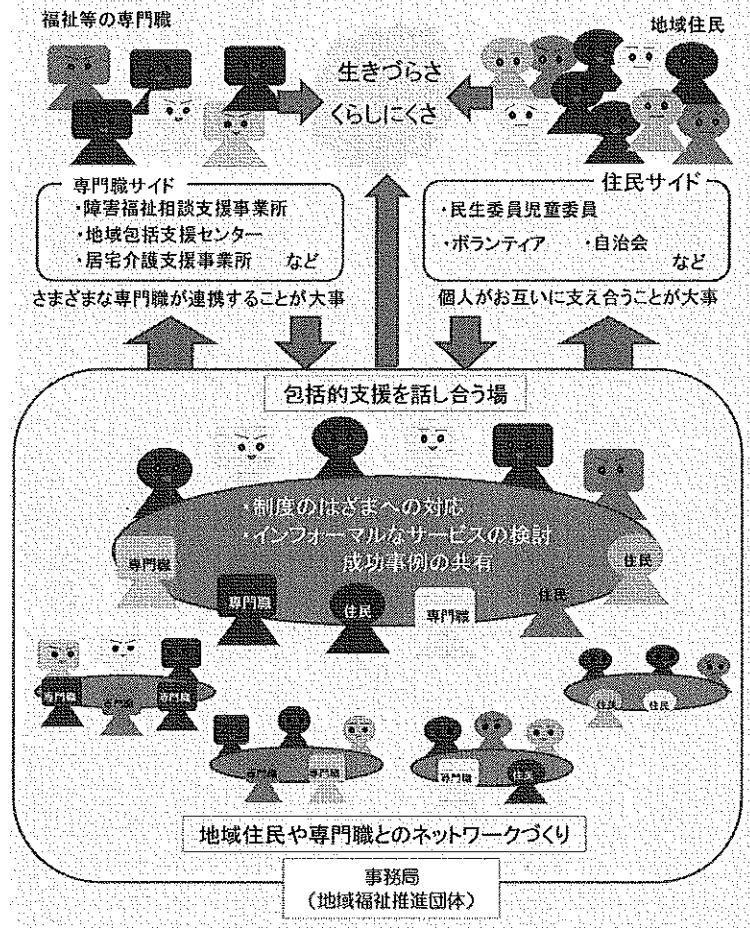
障害サービス相談員 3名

プロジェクト委員 3名

社協職員 3名

#### 【意見交換（主なもの）】

- 専門職が制度上の問題で対応しきれない生活支援の課題を地域と一緒に共有することで、対応できる可能性が拡がるのではないか。
- SOSが発信できない方、困りごとを認識できていない方、あるいは地域に相談しようと思っている方や地域とつながっていない方々と支援者へつなぐことや「支援」にむけてつなぐための工夫（仕組みと仕掛け）が必要なのではないか。
- 福祉の専門職にとって、地域住民と話し合う場はすごく新鮮！ こういった場をもっと拡げた方がよいと思う。
- 改めて、民生委員活動が見守りサポート会議を活用し、地域でできることを考えることを進めなければと思った。
- 地域の福祉活動と福祉専門職の活動をつなぐ役割を担うところが必要だと思う。



## ②不安や困りごとを抱える方の居場所づくり

本計画において、不安や困りごとを抱える方の居場所をつくることが計画化されているものの、コロナ禍により地域のふれあいサロンや集う場の活動が休止するなど停滞しました。しかしながら、コロナ禍であっても工夫しながら活動を進めているところもあり、今一度「福祉」の視点から居場所とはどういったものか、何を取り組めばよいのか話し合いました。

まず、くらしサポートプロジェクトで考える居場所とは、

「生きづらさ」の要因となっている不安ごとや困りごとを抱える方々が、つながりづくり・仲間づくりといったコミュニティが生まれ、人同士の接点となるところ  
と考えました。

つまり、居場所とは、「つながりが創造・創出される」場であると捉え、町内の取り組みを次の分類に整理しました。

### 取り組みの分類

#### 居場所(つながり)の整理

##### ①住民個々と住民個々のつながり

こども食堂 やんちゃ寺 趣味サークルなど

##### ②住民個々と住民集落のつながり

ふれあいサロン 敬老会 こども会など

住民集落とは

自治会・集落・地縁

##### ③住民個々と専門家(職)のつながり

介護保険ディ 認知症カフェ 就労支援事業所  
子育て広場 学童保育 元気もりもり教室など

##### ④住民集落と専門家(職)のつながり

見守りサポート会議 福祉機関連携会議など

#### 【みえてきたこと】

- ・①の住民個々と住民個々のつながりを推進できる機能として、当町内の機関としては町行政と町社協が担うことができる。
- ・しかし、町社協自身が実態の把握や情報集約ができておらず、推進していくための支援活動の確立ができていない。

今後は、分類した取り組みから引き続き話し合う予定をしています。

# ボランティアセンタープロジェクトまとめ



## 【令和2年度委員で検討した内容】

### ★コロナ禍におけるボランティア活動について

#### 『委員の意見』

- ・コロナに対するそれぞれの捉え方はあるが、子供や高齢者に感染してしまったら怖いので、どんなボランティアができるのか悩ましい。
- ・今自分がしているボランティア活動は、人と接することは多いので活動ができるない。
- ・世の中では失業等で引きこもりや鬱になる人が増えていると聞いたりするが、傾聴ボランティアが必要ではないか。
- ・人ととのふれあいが大切なことなのに、今はできていない。
- ・これまで当たり前のようにしてきたことが、コロナ禍の影響で一変している。
- ・施設はボランティア受け入れをキャンセルしている。

#### 『進めていくこと』

- \*コロナ禍で課題を抱えた方や引きこもりの方などへの傾聴ボランティア活動はこれから必要となる。
- \*人が集まるサロン活動等は、参加人数を分けるなどの工夫も一つの方法である。
- \*これまでの活動目的や根拠となるニーズを見直し、新たな取り組みや工夫を進めてみるのも良い。(新たな良い点が見えるかもしれない。)

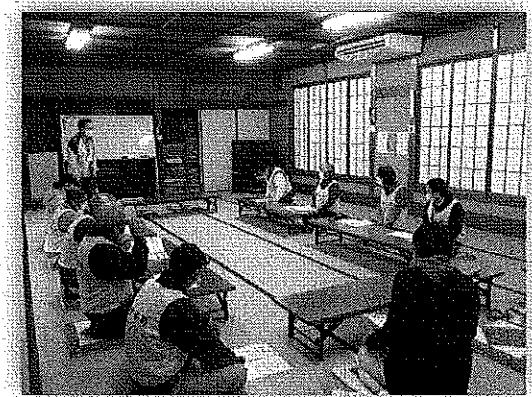
### ★災害ボランティアセンター設置運営訓練

3月に訓練を実施しました。ボランティアセンター活動報告に記載しています。  
(14ページ)

### ★ボランティアセンターの啓発について

#### 『これからのボランティアセンターについて』

- ・ボランティアやボランティアセンターの言葉については、堅いイメージがあり住民への伝え方の工夫が必要である。  
登録者や活動内容を増やしてコーディネートするだけでなく、ボランティアセンターにもっと住民や活動先に関わっていただくこと、個別のボランティア活動ニーズに対応していくことが必要だと考えます。
- ・次年度以降は、どのようなボランティアセンターにしていくのか引き続き委員と検討していく。



# 令和2年度 ボランティアセンターの取り組み報告

## ①ボランティア登録状況

### H30 年度

個人ボランティア：496名  
ボランティアグループ：45グループ  
災害支援ボランティア：20名  
子どもボランティア登録：10名

### R1 年度

個人ボランティア：512名（16名増）  
ボランティアグループ：45グループ（増減なし）  
災害支援ボランティア：21名（1名増）  
子どもボランティア登録：13名（3名増）

### R2 年度（R3年2月19日時点）

個人ボランティア：474名（38名減）  
ボランティアグループ：44グループ（1グループ減）  
災害支援ボランティア：21名（増減なし）  
子どもボランティア登録：13名（増減なし）

## ②ボランティアコーディネート

### H30 年度

相談 79 件（内コーディネート 55 件）

### R1 年度

相談 96 件（内コーディネート 56 件）

### R2 年度（R3年2月19日時点）

相談 68 件（内コーディネート 15 件）

## ●ボランティアコーディネート

・芸能ボランティアの調整事務の効率化を図る。

コーディネートの月別一覧表を作成する。

地域ボランティア（芸能）の調整については、早めに連絡をおこなっていただくよう伝える。

託児ボランティアの調整事務も改善を図る。学校支援部会とも調整。（年間計画で調整する）

R2年度は、コロナ禍の影響でイベントやサロンが中止となりボランティア自体少なかった。今後もしばらくボランティアの活動の場が少ない状況が続くと予測されるが、リモートDVDなどの活用で、今後の活動に切れ目のないよう調整していきたい。

### ③ボランティア情報発信

#### H30 年度

- ・ボランティアだより：年間4回発送（5月、7月、9月、2月）
- ・社協広報：年間1回掲載

#### R1 年度

- ・ボランティアだより：年間4回発送（5月、7月、11月、2月）
- ・社協広報：年間1回掲載

#### R2 年度

- ・ボランティアだより：年間3回発送（8月、10月、1月）

### ●ボランティア情報の発信

- ・ボランティア通信の発行

年3回発行 ボランティア登録者へは郵送にて案内をする。同時に、ボランティア募集チラシ等なども添付している。

町民への啓発のため、通信については全戸回覧もおこなう。

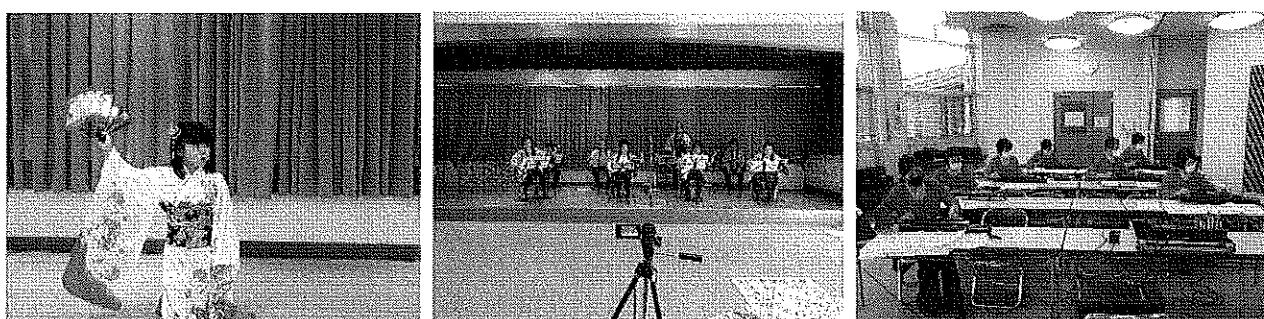
### ④芸能ボランティア体験（チョボラ体験）

対象：愛荘町民

内容：参加者の趣味や特技等を活かして、参加者が演芸等をしている様子を映像化する。

映像化したものについては、ボランティアカフェ等の他事業で紹介する。要望があれば、町内の施設等に貸出を行う。

参加：全戸回覧にて案内し、個人1名と5団体の参加がありました。



### ●評価

今年度は、コロナ禍での体験メニューを考え特技等の映像募集という形式で、芸能ボランティア体験を実施した。ボランティア登録をされているグループからの参加申し込みが多かった。また、大人の方の参加だけでなく、町内の学校にそれぞれ周知を行い、小学生1名と愛知中学校のダンスグループにも参加していただいた。

募集した映像については、DVD化を行い、町内の福祉施設等に貸出を順次行っていきたいと思う。今回の取り組みを通して、映像を提供されたグループや個人の方と、借りられた福祉施設等の方がつながるきっかけになるようにしたい。

## ⑤クリスマスプレゼント作り体験（チョボラ体験）

作成期間：令和2年11月12日（木）～令和2年12月11日（金）

プレゼント渡し：令和2年12月17日（木）

内容：クリスマスプレゼント（巾着袋）を作成し、いきいき見守り訪問事業利用者約80名に配布する。

参加：愛知中学校家庭科学部（部員6名）・美術部（代表2名）

愛知高等養護学校（13名）・地域ボランティア（6名）：計27名

作成工程：①布の裁断：地域ボランティア（2名）

②ワンポイントの刺繡：愛知中学校家庭科学部・地域ボランティア（11名）

③ミシン掛け：愛知中学校家庭科学部・愛知高等養護学校（19名）

④同封するクリスマスカードの作成：愛知中学校美術部（2名）

⑤仕上げ作業（ラッピング）：地域ボランティア（5名）



### ●所感

今回の取り組みには、普段ボランティア事業では関りが薄い愛知中学校の生徒の方にも参加していただくことができた。プレゼントの内容を決める打ち合わせの段階から参加していただき、作成するものについて一緒に考えてもらった。

愛知中学校の家庭科学部を中心に、愛知高等養護学校や裁縫が得意な地域ボランティアの方にもご協力いただいた。作成にあたって、中学生と地域ボランティアの方が一緒に作業をしていただく日もあり、日ごろ関わりがないなか交流する良い機会になったのではないかと思う。多くの方々が作成に参加していただくことができたため、短期間で約80枚の巾着袋を作成することができた。作成したものは、クリスマスプレゼントとして、いきいき見守り訪問事業の利用者に配布した。利用者からは、手作りのものをもらえる機会があまりないため、嬉しいとの声を聞くことができた。

今年度は中高生にもボランティアに関わっていただくきっかけづくりができたため、次年度以降も取り組みの継続を検討したい。

## ⑥サンタクロース訪問（チョボラ体験）

実施：令和2年12月23日（水）18:00～20:00

内容：ボランティアさんにサンタクロースになっていただき、応募のあったご家庭を訪問し子どもたちへプレゼントを渡す。

訪問先：R2年度：21世帯【愛知川12世帯・秦荘9世帯】

R1年度：24世帯【愛知川13世帯・秦荘11世帯】

ボランティア数：7名（R1年度7名）



### ●評価

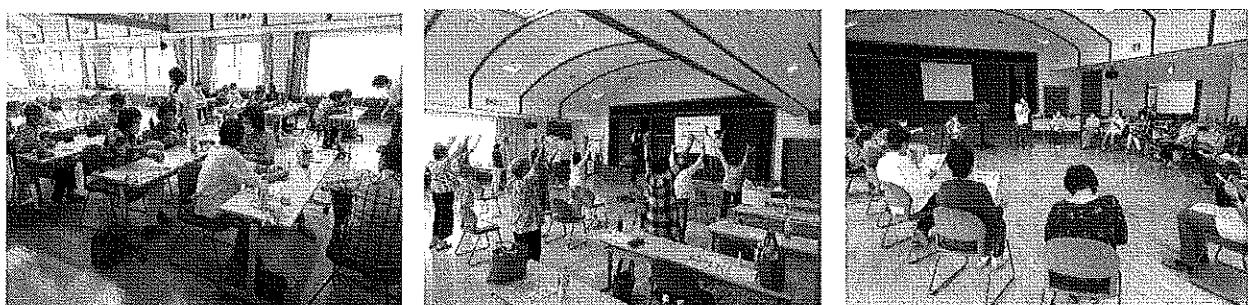
今年度のボランティアの方は、7名中6名が新規であった。以前からボランティアセンターに登録されている方だけではなく、ボランティアに関わり始めた方が参加してくださったため、ボランティアのきっかけづくりとしてよい機能を果たしたと思う。

コロナ禍でのサンタクロース訪問となつたが、ボランティアで参加された方も訪問家庭からも、楽しかったという声を多数いただくことができた。今後もコロナの状況が継続するのであれば、感染防止を徹底した上で、安全に楽しい事業を実施していきたいと思う。

### ⑦ボランティアカフェ

- 実施： ①9月24日（木）10：00～11：30…17名参加（内施設関係者なし）  
内容：アロマ除菌スプレーづくり・コロナ禍でもできるレクリエーション等  
②2月25日（木）13：30～15：00…定員20名【開催予定】  
内容：コロナ禍でのボランティア活動を考えましょう  
おしゃべり会・レクリエーション等

目的：ボランティア活動者とボランティアの受入機関がつながる場として、ボランティア同士や活動を始めたいと考えている方が情報交換できる場を提供し、町内ボランティアに関わるネットワークを広める。



### ●評価

今年度は、コロナ禍での開催のなか、1回目は見込みより多く参加してくださった。コロナ禍でサロンやイベントも中止となり人と出会えずさみしいが、カフェに参加して人と話ができるうれしかった、ボランティアをすることが生きがいになっていたが、できなくなつて寂しかった等の話をされており、感染防止対策をしっかりした上で開催する意味は十分にあったと感じる。今後も感染対策をしながら開催していきたい。

⑧愛荘町地域支え愛ポイント制度 (R3. 2. 19 現在)

・登録者数 総数 435名 (男性 108名・女性 327名)

・年代別

10・20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
4名	10名	13名	34名	214名	156名	4名	435名

・小学校区別

秦荘東	秦荘西	愛知川東	愛知川	町外
128名	75名	76名	123名	33名

・ポイント交換件数 28件 (令和元年度で82件あった。)

・新規登録の推移 平成29年度 61名

平成30年度 126名

令和元年度 38名

令和2年度 22名 (R3, 2月現在)

●評価

コロナ禍で活動場所が減少したこともあり、今年度も新規登録者が少なかった。今、登録されている方も、高齢の方が多く高齢を理由にボランティアをやめるとの声がある。

## ⑨災害支援に関する取り組み

### 【災害ボランティアセンター】

島川自治会協力のもと、地震被害を想定した災害ボランティアセンター設置運営訓練を実施。

島川在住の高齢者 6 世帯を訪問して被災ニーズ調査訓練を行なう。

令和 3 年 3 月 6 日（土） 9：00～10：30

参加者数 災害支援ボランティア 6 名・島川自治会 3 名・ボラセン運営委員 4 名

社協 3 名 合計 16 名

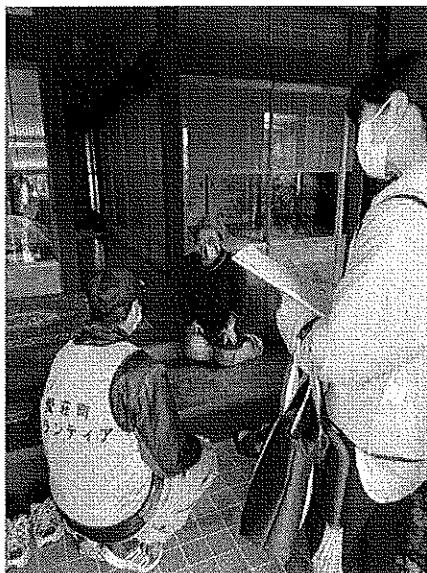
内容 自治会内の高齢者宅（6 世帯）を訪問し、支援ニーズの聞き取り調査として、日ごろの災害時の備えや避難等についてお話を聴かせていただく。

### ●評価

今回の訓練では、災害時の復興にボランティアの手伝いが必要な場合は、災害ボランティアセンターで受付をして、ボランティアの調整をして派遣する業務をしていることを、啓発することを目的に自治会の役員様方に協力をお願いし一緒に活動することができた。

災害支援ボランティア登録者も多く参加いただき、聞き取り活動で「高齢者の方が日ごろから備えの意識が高かった」「組単位での取り組みをされていた」等、聞かせていただき実際に災害が来た時にボランティアとしてどのような対応ができるか考えていただきたいとの意見があった。

このような取り組みを他の自治会でも今後広めていきたいと考える。



## 令和2年度「福祉教育プロジェクト」まとめ

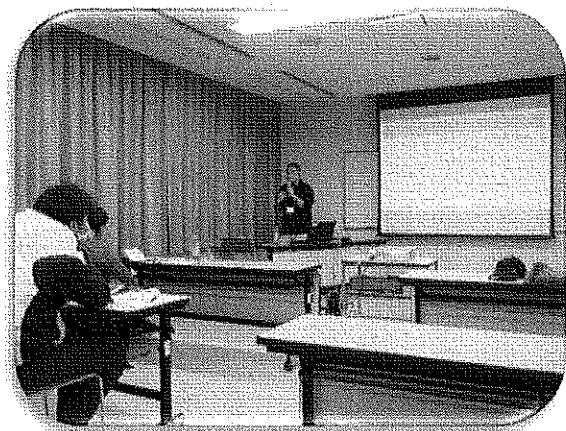
今年度から、本プロジェクト取り組み内容の「C. 不安や困りごとを抱える方たちとお互いに理解し合う機会をつくります」に向けて、協議を進めてきました。地域住民に当事者(障がい者)への理解を広げる取り組みを進める前に、まずは推進委員が当事者(障がい者)のことについて“知る・理解する”ところから進めています。

### ★「当事者(障がい者)のことを知る・理解する機会」への取り組み

#### ○推進委員を対象とした取り組み

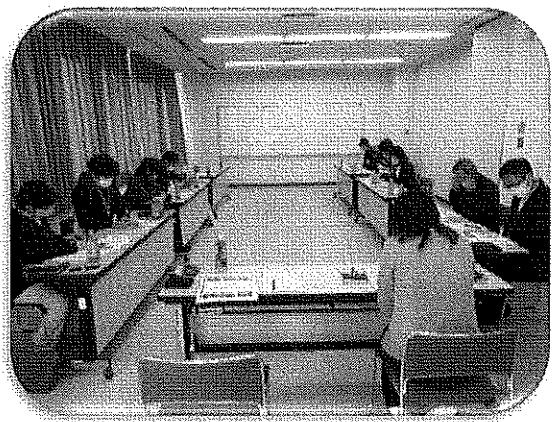
ステップアップ 21(障がい者支援施設)の相談員から「住みたくなる地域ってどんな地域? ~障害を持たれている方とのコミュニケーションを通して~」と題して講義いただき、精神障害のこと、接し方等について学びました。

次のステップとして、障がい者支援施設の利用者さんとの交流の場を調整しています。



#### ○地域住民を対象とした取り組み

上記で学んだことを踏まえて、地域住民を対象とした「障がいのある方を知る・理解する機会」をつくりていきます。具体的には、各自治会で取り組まれている「見守りサポート会議」の場を活用し、初めのきっかけとして上記のような研修を取り入れていただく等を検討しています。



### ★福祉教育連絡会議の開催

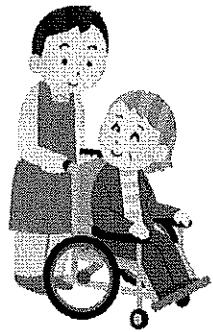
本プロジェクトでは1・2年目を中心に「子どもたちを中心においた学校での福祉学習への取り組み」を進めてきました。以降も引き続き、本会を通じて各学校の福祉学習に関わり続けています。

今年度についても各学校の担当教諭にお集まりいただき、福祉学習・体験内容の振り返りを中心とした情報・意見交換会を開催しました。

### ★次年度(最終年度)の取り組みについて

地域の中に障がいサポーター(障がいの病気等を理解している住民)を増やせるよう、地域の中で「障がいのある方を知る・理解する機会」を設けるきっかけを本プロジェクトから働きかけていきます。

# ～令和2年度～ 各学校の福祉学習の取り組み



1

## ★愛知川東小学校

～4年生 75名（1組：24名、2組：26名、3組：25名）～

### ●車イス体験（3回実施）

～1回目～

テーマ：車イス自走・介助の基礎について

日時：令和2年11月4日（水）

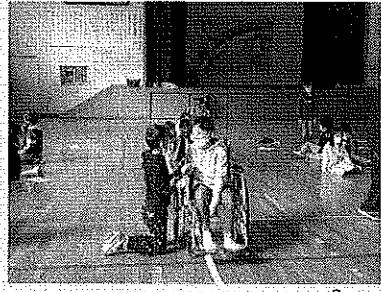
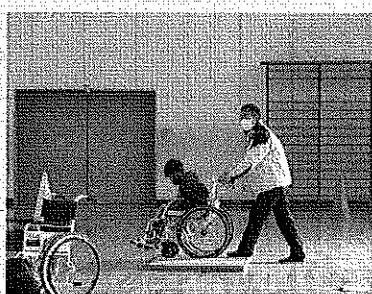
1～2時間目（1組・3組）3～4時間目（2組）

場所：愛知川東小学校 体育館

内容：①身体障害について

②車イスの使用方法・介助方法について

③自走体験、介助体験（平坦な道、障害物）



2

## ～2回目～

テーマ：様々な道（砂利道・スロープ・狭い場所等）での車イス体験

日時：令和2年11月6日（金）

8:50~9:50（1組）、10:00~11:00（2組）、11:10~12:10（3組）

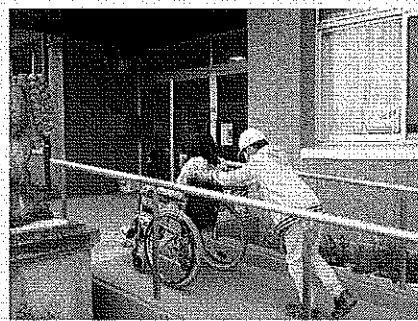
場所：愛知川東小学校敷地内

内容：①前回の振り返り

②学校敷地内での車イスの自走・介助体験

## ～コース～

校門前の段差、スロープ、アスファルト面、砂利道、草むら



3

## ～3回目～

テーマ：道路上や愛荘町役場周辺で車イス自走・介助体験

日時：令和2年11月27日（金）

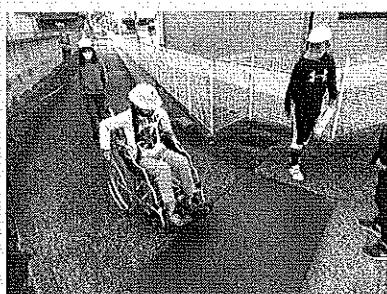
10:00~11:00（1組）、11:10~12:10（2組）、  
13:40~14:40（3組）

場所：愛知川東小学校から愛荘町役場までの道路、愛荘町役場周辺（ロータリー付近）

内容：①前回の振り返り

②学校から愛荘町役場までの道路で車イス自走・介助体験

③愛荘町役場周辺（ロータリー付近）で車イス自走・介助体験



4

### ●アイマスク体験

テーマ：視覚障害・ガイドヘルプ体験について

日時：令和3年2月12日（金）

1～2時間目（1組）、3～4時間目（2組）、5～6時間目（3組）

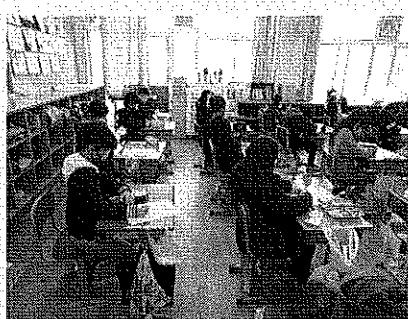
場所：愛知川東小学校4年生各教室、学校敷地内（ガイドヘルプ体験）

内容：①視覚障害について

②弱視、視野狭窄の説明・疑似体験

③全盲の説明

④ガイドヘルプ体験



5

### ●点字体験

テーマ：浅野先生のお話、点字体験

日時：令和3年2月18日（木）

3～4時間目（1組・2組）、5～6時間目（3組）

場所：愛知川東小学校 多目的教室

講師：浅野征三氏（ご夫婦）

内容：①自己紹介

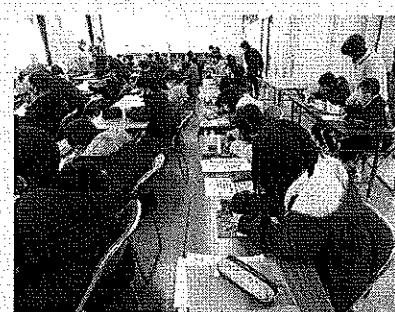
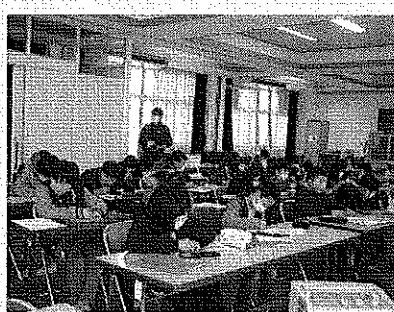
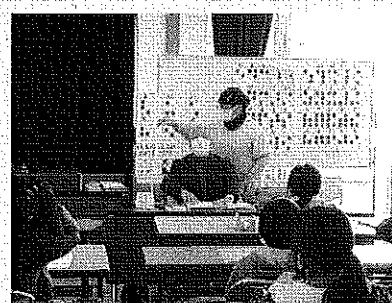
②経歴と視覚障害になるまで

③視覚障害者の生活や困りごとについて

④質疑応答

⑤点字体験

⑥まとめ



6

## ★愛知川小学校

～4年生 89名（1組：29名、2組：31名、3組：29名）～

### ●車イス体験

テーマ：車イス自走・介助の基礎、様々な道（砂利道・スロープ・草の道等）での車イス体験

日時：令和2年10月30日（金）

1～2時間目（1組）、3～4時間目（2組）、5～6時間目（3組）

場所：愛知川小学校敷地内

内容：①福祉・身体障害について

②車イスの使用方法・介助方法について

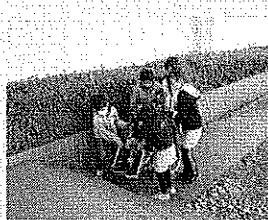
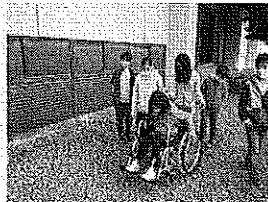
③自走体験、介助体験（アスファルト面）

④学校敷地内での車イス自操・介助体験

～コース～

砂利道、スロープ、草むら、階段

アスファルト面



7

### ●点字体験

テーマ：浅野先生のお話、点字体験

日時：令和2年11月19日（木） 3～4時間目（3クラス合同）

場所：愛知川小学校 多目的教室

講師：浅野征三氏（ご夫婦）

内容：①自己紹介

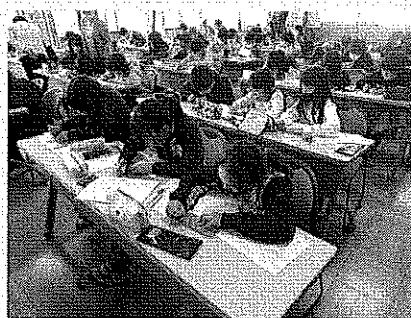
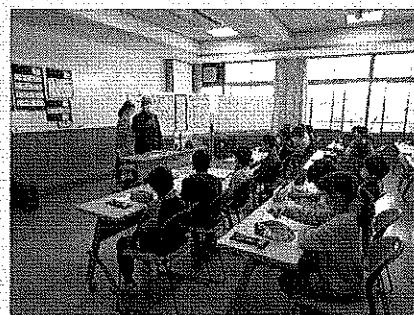
②経歴と視覚障害者になるまで

③視覚障害者の生活や困りごとについて

④質疑応答

⑤点字体験

⑥まとめ



8

## ★秦荘東小学校

～4年生 49名（A組：24名、B組：25名）～

### ●手話体験

テーマ：聴覚障害について

日時：令和2年9月16日（水）

2時間目（B組）、3時間目（A組）

場所：秦荘東小学校 視聴覚室

講師：手話サークル「ゆびゆり」様

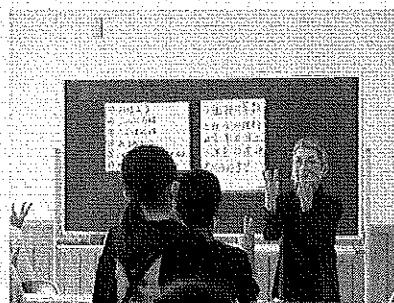
内容：①自己紹介

②聴覚障害者とのコミュニケーションについて

③聴覚障害者の生活や困りごとについて

④手話体験

⑤まとめ



9

### ●アイマスク体験

テーマ：視覚障害・ガイドヘルプ体験について

日時：令和2年9月7日（月）

1～2時間目（A組）、3～4時間目（B組）

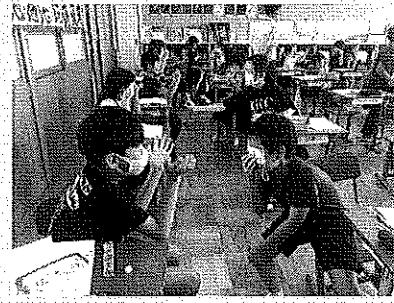
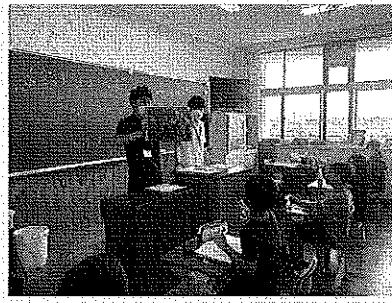
場所：秦荘東小学校4年生各教室、学校敷地内（ガイドヘルプ体験）

内容：①視覚障害について

②弱視、視野狭窄の説明・疑似体験

③全盲の説明

④ガイドヘルプ体験



10

### ●視覚障害について

テーマ：浅野先生のお話

日時：令和2年9月18日（金） 2時間目（A組）、3時間目（B組）

場所：秦荘東小学校4年生 各教室

講師：浅野征三氏（ご夫婦）

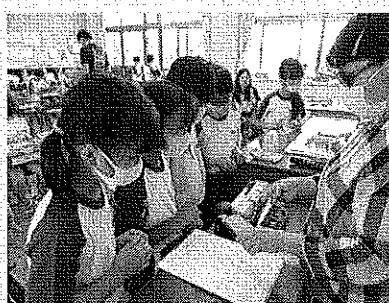
内容：①自己紹介

②経歴と視覚障害者になるまで

③視覚障害者の生活や困りごとについて

④質疑応答

⑤まとめ



11

～5年生 36名（A組：17名、B組：19名）～

### ●車イス体験

テーマ：車イス自操・介助の基礎について

日時：令和3年2月1日（月） 5～6時間目（2クラス合同）

場所：秦荘東小学校 体育館

内容：①身体障害について

②車イスの使用方法、介助方法について

③自走体験、介助体験（平坦な道、障害物）



12

## ★秦荘西小学校

～4年生 47名（1組：24名、2組：23名）～

### ●手話体験

テーマ：聴覚障害について

日時：令和2年7月16日（木）2時間目（1組）、3時間目（2組）

場所：秦荘西小学校 大会議室

講師：手話サークル「ゆびゆり」様

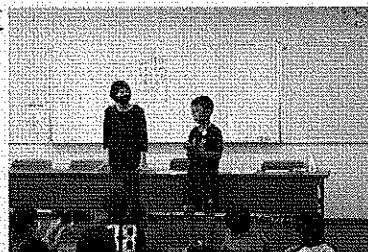
内容：①自己紹介

②聴覚障害者とのコミュニケーションについて

③聴覚障害者の生活や困りごとに

④手話体験

⑤まとめ



12

### ●点字体験

テーマ：浅野先生のお話、点字体験

日時：令和2年10月8日（金） 3～4時間目（1組）、5～6時間目（2組）

場所：秦荘西小学校4年生 各教室

講師：浅野征三氏（ご夫婦）

内容：①自己紹介

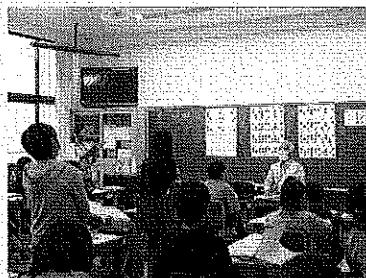
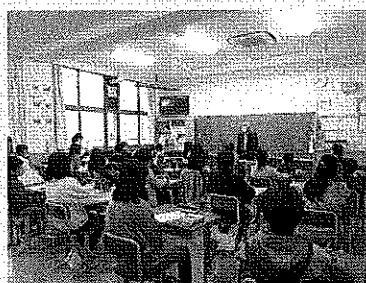
②経歴と視覚障害者になるまで

③視覚障害者の生活や困りごとについて

④質疑応答

⑤点字体験

⑥まとめ



13

### ●アイマスク体験

テーマ：視覚障害・ガイドヘルプ体験について

日時：令和2年10月22日（木）

3～4時間目（2組）、5～6時間目（1組）

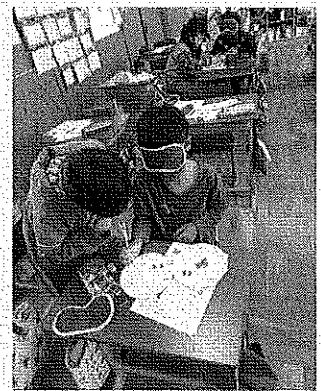
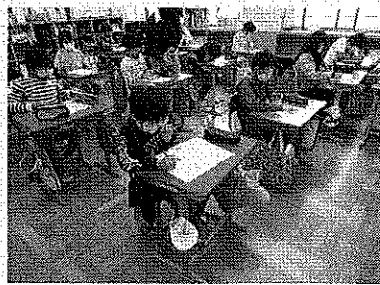
場所：秦荘西小学校4年生各教室、学校敷地内（ガイドヘルプ体験）

内容：①視覚障害について

②弱視、視野狭窄の説明・疑似体験

③全盲の説明

④ガイドヘルプ体験



15

### ●盲導犬利用者について

テーマ：山野先生のお話

日時：令和2年10月29日（木） 2時間目（1組）、3時間目（2組）

場所：秦荘西小学校 大会議室

講師：山野ひろみ氏、クリド（盲導犬）

内容：①自己紹介

②視覚障害について

③DVD視聴

④盲導犬について

⑤視覚障害者の生活や困りごとについて

⑥まとめ



16

### ●車イス体験

テーマ：車イス自操・介助の基礎について

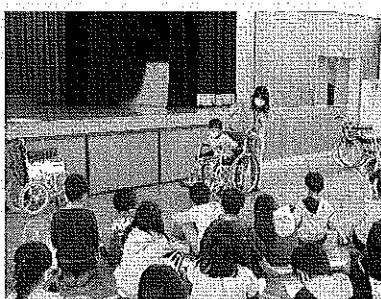
日時：令和2年11月26日（木） 3～4時間目（2クラス合同）

場所：秦荘西小学校 体育館

内容：①身体障害について

②車イスの使用方法、介助方法について

③自走体験、介助体験（平坦な道、障害物）



17

## ★愛知高等学校

～2年生 100名

(1組：34名、2組：22名、3組：22名、4組：22名)～

### ●点字体験

テーマ：浅野先生のお話、点字体験

日時：令和2年12月9日（水）

3時間目（1・2組）、4時間目（3・4組）

場所：愛知高等学校 視聴覚室

講師：浅野征三氏（ご夫婦）

内容：①自己紹介

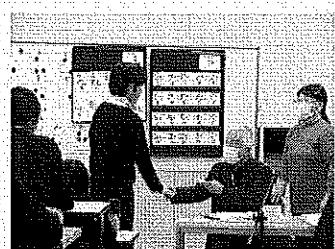
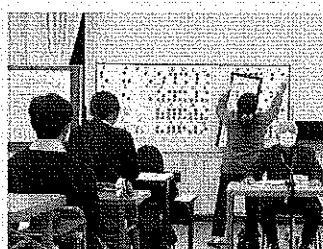
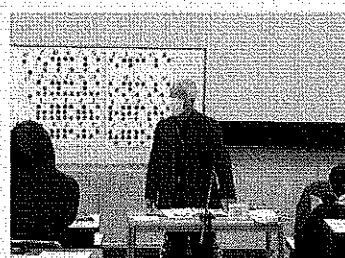
②経歴と視覚障害者になるまで

③視覚障害者の生活や困りごとについて

④質疑応答

⑤点字体験

⑥まとめ



18

# ～ボランティア体験の取り組み～

## ★チョボラ体験

テーマ：クリスマスプレゼント作り体験

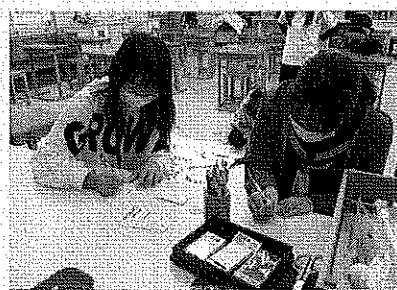
作成期間：令和2年11月12日（木）～令和2年12月11日（金）

参加者：愛知中学校家庭科学部（部員：6名）、美術部（代表2名）

　　愛知高等養護学校3年生（13名）、地域ボランティア（6名）

プレゼント内容：巾着袋

配布先：いきいき見守り訪問事業利用者（約80名）



## 令和2年度「地域を守る災害支援プロジェクト」の取り組みのまとめ

第2次地域福祉活動計画の4年目を迎え、愛知川ニュータウン自治会と松尾寺南自治会の両モデル地区の地域の実情に応じた取り組みを進めるため、コロナ禍ではありましたが自治会役員の方々のご協力のもと、地域住民の防災意識の向上と要配慮者の方々が安心して地域で生活できるような支援体制づくりに向けて検討し進めることができました。

### 1. 愛知川ニュータウン自治会

水害、浸水のリスクが高い地域に住んでいる中で、日頃から災害に対する意識を持つていただけるよう継続した啓発活動や、災害発生時に避難行動に支援を必要とする方の存在を把握するための調査活動に取り組みました。

#### ○取り組み内容

##### ◇推進会議 3回（9月 12月 2月）

- ・隣接する渕の下自治会とともに、各自治会が抱える課題を共有しながら地域防災について検討し進めることができました。
- ・地域防災にかかる町行政担当者からの情報提供と意見交換会の実施
- ・災害時避難行動要介助意向調査の実施（4名の方から申し出）

##### ◇研修会 1回（11月） 役員3名、組長10名参加

- ・実際に災害が発生した時の被害状況が、どのようなものなのかを知り、日頃から地域で取り組むべき大切なことを学ぶ機会として、自治会役員、組長を対象に「おたがいさまの地域福祉活動」と題しての研修会を実施されました。

##### ◇啓発活動

- ・水害リスクの啓発や避難場所の周知に関するチラシの全戸配布

#### ○成果と課題

- ・自治会役員も前向きに考えてくれるようになり、少しずつではあるが進んでいる。
- ・5年間のプロジェクトが終わっても継続していくことが必要であり課題でもある。

#### ○次年度に向けて（目標到達点）

- ・災害時等の避難行動要支援者の方の身近な住民による支援体制について

### 2. 松尾寺南自治会

「安心して暮らせる、元気な松南」「高齢者等の見守り、字内の安全・美化を進めよう」をキーワードに、見守り、交通安全、防犯対策などを含め、自治会役員を中心2か月に1回サポート会議で検討され、住民情報等の共有と緊急時に活用できる住民台帳の整備に向けて協議し進めることができました。

#### ○取り組み内容

##### ◇推進会議 4回（8月 10月 1月 3月）

- ・新規指定の土砂災害警戒区域の情報共有と避難警戒レベル「4」の発令時の初動体制（役割分担）について
- ・緊急時に活用できる住民台帳の整備に向けて
- ・防犯、交通安全対策について（近隣自治会との連携した取り組みに向けて）

#### ○成果と課題

- ・緊急時連絡表（住民台帳）の整備に向けて住民の理解を得られた。
- ・新たな土砂災害警戒区域の啓発について、
- ・サポート会議の後継者の育成

#### ○次年度に向けて（目標到達点）

- ・避難警戒レベルの発令に応じた役員の初動体制の基準の見直しと災害等緊急時に住民台帳が活用できるような取り組みの検討